

中学歴史プリント（過去問類似）

飛鳥時代

名前

得点

/8

問1 飛鳥時代から江戸時代までの重要人物をまとめた記述において、壬申の乱での勝利を通じて即位し、天皇を中心とした国づくりを進めたとされる人物の事績として、最も適切な説明はどれか。（2025年 栃木公立入試 類似）

1. 飛鳥浄御原令の編纂や、日本初の本格的な都とされる藤原京の造営に着手した。
2. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとられない人材登用や政治の心得を示した。
3. 墾田永年私財法を出し、開墾した土地の永久私有を認めることで農地の拡大を図った。
4. 律令政治の立て直しを目的として、都を平城京から平安京へと移した。

問2 聖徳太子が「十七条の憲法」を制定した目的やその内容についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. 豪族たちに役人としての自覚を持たせ、争いを避けて天皇の命令に従う体制を整えるため
2. 唐の法律にならって、全国の土地と人民を国家が直接支配する公地公民の制を確立するため
3. 武士同士の領地争いを裁くための公平な基準を定め、鎌倉幕府の支配を安定させるため
4. キリスト教の布教を制限し、有力な大名による貿易の独占を禁止して幕府の権威を高めるため

問3 701年に制定された「大宝律令」では、唐の制度を模範として、刑罰の規定である「律」と、政治の仕組みや税の義務などを定めた「令」が体系化されました。このように、高度な法体系を導入することで当時の政府が目指した国家の姿として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 山口公立入試 類似）

1. 天皇を中心とする中央集権的な政治体制を確立し、国家の統治を強固にするため
2. 各地の豪族がそれぞれの土地を独自に支配する、分権的な連合国家を維持するため
3. 武家が土地を介して主従関係を結ぶ封建制度を、法的に正当化するため
4. 海外との自由な貿易を促進するために、民間の商人に独自の特権を付与するため

問4 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。
2. 蝦夷（えみし）との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。
3. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。
4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。

問5 7世紀後半、朝鮮半島で滅亡した百済を復興させるために日本が送った軍が、唐と新羅の連合軍に大敗した戦いを何というか、名称を答えなさい。（2021年 三重公立入試 類似）

1. 白村江の戦い
2. 壇ノ浦の戦い
3. 桶狭間の戦い
4. 長篠の戦い

問6 飛鳥時代において、家柄にとられず個人の才能や功績がある者を役人として登用するために、冠の色によって位の高さを示した制度を何といいますか。（2020年 京都公立入試 類似）

1. 冠位十二階
2. 墾田永年私財法
3. 万葉集の編纂
4. 枕草子の執筆

問7 7世紀から8世紀にかけて、日本は天皇を中心とする中央集権的な律令国家の形成を目指した。この過程で起きた「大化の改新」「壬申の乱」「大宝律令の制定」の3つの出来事を、発生した時期が古いものから順に並べたものとして正しいものはどれか。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 大化の改新 → 壬申の乱 → 大宝律令の制定
2. 大化の改新 → 大宝律令の制定 → 壬申の乱
3. 壬申の乱 → 大化の改新 → 大宝律令の制定
4. 大宝律令の制定 → 壬申の乱 → 大化の改新

問8 飛鳥・奈良時代に行われた遣隋使や遣唐使の派遣に関連して、当時の外交や国内政策の状況を正しく説明しているものはどれか。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 小野妹子などの使節を派遣し、大陸の進んだ制度を吸収して国家の仕組みを整えようとした。
2. 全国的な戸籍を作成して土地と人民を直接支配するため、中国の徴税制度をそのまま模倣して実施した。
3. 遣隋使の派遣によって得た技術を用い、聖武天皇が全国に国分寺を建てて社会の混乱を鎮めようとした。
4. 菅原道真の建議によって遣唐使を停止するまで、日本は一貫して中国に対して臣下の礼をとり続けた。

答え合わせ・解説

| | | |
|----|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1 | 答え 1 飛鳥浄御原令の編纂や、日本初の本格的な都とされる藤原京の造営に着手した。 | 壬申の乱に勝利した天武天皇は、律令の先駆けとなる飛鳥浄御原令の編纂を命じ、より強力な中央集権体制を象徴する藤原京の建設を進めました。他の選択肢は、それぞれ聖徳太子、聖武天皇、桓武天皇の事績です。 |
| 問2 | 答え 1 豪族たちに役人としての自覚を持たせ、争いを避けて天皇の命令に従う体制を整えるため | 当時の政治は有力な豪族たちの連合体のような性格が強く、しばしば対立が起きていました。聖徳太子は、仏教や儒教の思想を背景に「和」の精神や「天皇の命令への服従」を説くことで、豪族を天皇に仕える「役人」へと変貌させ、中央集権的な国家をつくる基盤を固めようとしていました。 |
| 問3 | 答え 1 天皇を中心とする中央集権的な政治体制を確立し、国家の統治を強固にするため | 大宝律令の制定により、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則に基づき、官僚機構を通じた効率的な統治が目指されました。これは、唐などの周辺諸国に対抗し、日本を一つの強力な国家としてまとめるための重要な改革でした。 |
| 問4 | 答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。 | 百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。 |
| 問5 | 答え 1 白村江の戦い | 663年に朝鮮半島の白村江で行われたこの戦いは、中大兄皇子（のちの天智天皇）の時代に起こりました。日本は伝統的に友好関係にあった百済を支援しましたが、唐と新羅の強力な連合軍の前に大敗を喫しました。これにより、日本は朝鮮半島における影響力を失うこととなりました。 |
| 問6 | 答え 1 冠位十二階 | 聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政を務めていた時期に制定されました。それまでの「氏姓制度」のように家柄で地位が決まる仕組みを改め、能力のある人材を確保することで、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整える狙いがありました。 |
| 問7 | 答え 1 大化の改新 → 壬申の乱 → 大宝律令の制定 | 645年の大化の改新によって蘇我氏が倒され、天皇中心の政治への転換が始まり、公地公民の原則が示された。その後、672年の壬申の乱に勝利した天武天皇が強力な権力を握り、中央集権化を加速させた。その一連の流れの到達点として、701年に本格的な律令である大宝律令が制定され、法に基づいた統治体制が整った。 |
| 問8 | 答え 1 小野妹子などの使節を派遣し、大陸の進んだ制度を吸収して国家の仕組みを整えようとした。 | 遣隋使や遣唐使は、高度な文明を持っていた中国から法律、官僚制度、仏教などの文化を吸収するために組織されました。聖武天皇による東大寺の大仏建立や国分寺の建立は奈良時代の中期であり、遣隋使の開始時期とは異なります。また、全国的な戸籍作成（庚午年籍など）は国内統治の進展を示すものですが、使節派遣の直接的な目的そのものではありません。 |